

平成26年11月14日

## 平成26年度第2回野菜需給協議会の概要

独立行政法人農畜産業振興機構

本日、生産者、流通業者、消費者等野菜にかかわる関係者が一堂に会する平成26年度第2回野菜需給協議会が開催され（11月13日（金）13:30～15:30、（独）農畜産業振興機構会議室）、「平成26年産秋冬野菜の需給・価格の見通し」等を確認しました。概要は下記のとおりです。

### 記

#### 1 平成26年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて

- 野菜需給・価格情報委員会（平成26年11月7日開催）において、とりまとめられた「平成26年産秋冬野菜の需給・価格の見通し」について説明があり、質疑が行われた（見通しの詳細については、別紙のとおり）。

#### 【価格見通しのポイント】

- 冬キャベツは、期間を通じて順調な出荷となり、11月から3月の期間では、低温等の影響により高かった前年を下回る見込み。
- 秋冬だいこんは、台風の影響が軽微であったことから、期間を通じて順調な出荷となり、11月から3月の期間で前年を下回る見込み。
- たまねぎは、中国産たまねぎの供給懸念はあったが、北海道産が順調に生育したことから、期間を通じて順調な出荷となり、11月から4月の期間で、小玉傾向で出荷が少なく高かった前年を下回る見込み。
- 冬にんじんは、台風の影響が軽微であったことから、期間を通じて順調な出荷となり、11月から3月の期間で、少雨等の影響により高かった前年を下回る見込み。
- 秋冬はくさいは、台風の影響は軽微であったことから、期間を通じて順調な出荷となり、11月から1月は、低温等の影響により高かった前年を下回り、2月及び3月は平年並みとなった前年並みの見込み。
- 冬レタスは、期間を通じて順調な出荷となり、11月及び12月は低温等の影響で高かった前年を下回り、1月から3月は前年並みの見込み。

## 2 野菜の消費拡大活動等について

- 主婦連合会、青果物健康推進協会、全国農業協同組合連合会、NPO法人野菜と文化のフォーラム、消費科学センター及び農林水産省より、野菜の消費拡大の取組みについて説明があった。
- 協議会の取組みとして、8月29日（金）（「野菜の日」は8月31日）にイイノカンファレンスセンターで開催された、「野菜シンポジウム」の概要について報告があった。

## 3 その他

会員から以下のような発言があった。

- 量販店等ではカットされた野菜が販売されているが、多様な需要に応える観点から、例えば、ミニはくさいなど包丁を入れなくて鮮度が高い野菜をもっと増やしてもらいたい。
- 価格の高いときには、規格外品をもっと販売しても良いのではないか。特に、トマトやなすなど傷が多少あっても問題はない。
- 今年の価格が高いときにはカット野菜をよく利用していたが、国産のカット野菜の更なる安全性の確保と品質の保持の向上を図ってもらいたい。
- 消費者に対して、新しい野菜など情報提供の充実を今後もお願いしたい。
- 今後、野菜を販売する際に機能性、成分表示することが検討されているが、表示内容等十分に検討してもらい、安全性の確保をお願いしたい。
- 秋に入って野菜の価格が安くなってきたので、鍋などでもっと野菜を多く食べていきたい。

【参 考】 配付資料等については、ホームページで公表します。

(問い合わせ先)

独立行政法人農畜産業振興機構

野菜需給部 需給推進課

前川、鶴狩、濱名、小林

電話番号：03-3583-9449

# 平成26年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて

## 1 冬キャベツ（11～3月）

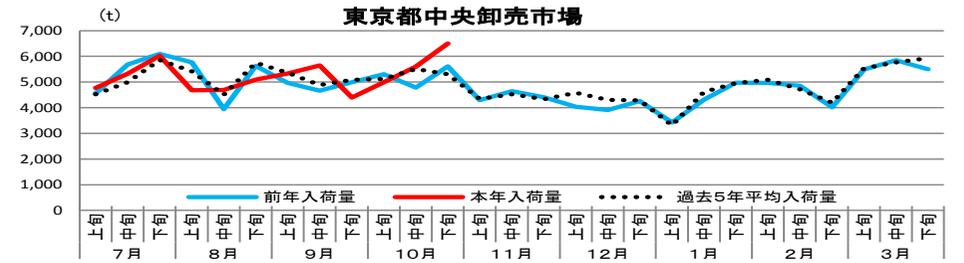
### 主産地の動向等

- 主な産地：千葉、神奈川、愛知
  - 作付面積は、千葉101%、神奈川及び愛知100%。
  - 生育状況は、千葉は、台風18号の影響で、一部塩害が発生し、植え直しをしているが、概ね順調な生育となっている。神奈川は、台風18・19号の影響で、一部塩害が発生し、植え直しをしているが、概ね順調な生育となっている。愛知は、年内については、概ね順調。年明けについては、台風18・19号の影響で浸水、根切れの被害が一部あるが、全体では概ね順調な生育となっている。
  - 出荷開始は、千葉は10月上旬、神奈川は11月上旬、愛知は10月下旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は平年並みか高い、降水量はほぼ平年並み、日照時間はほぼ平年並み見込み。

### 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

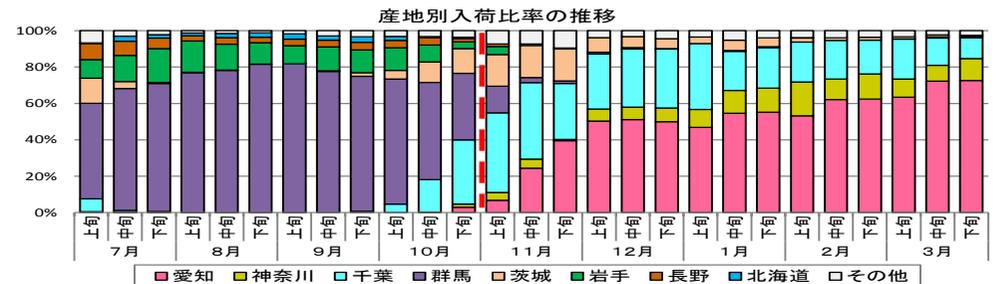
- 供給見通し
  - 作付面積は、前年並みの見込み。千葉は微増。
  - 生育状況は、千葉、神奈川とも台風の影響で一部塩害が発生して植え直しをしているが、概ね順調。愛知は、年明けについては一部台風の影響があるが、全体では概ね順調。
  - 出荷量は、期間を通じて概ね安定した出荷が見込まれ、期間を通じて前年を上回る見込み。
- 需要・価格見通し
  - 価格は、入荷増の単価安の傾向（10月中旬以降の急激な安値は、上旬までの高値により例年出荷をしない東北産の残量が出荷されたこと及び関東産の前進出荷により、入荷量が多くなったため。）。12月下旬～2月出荷分に台風18・19号の影響が出る可能性あり。
  - 加工・業務用は、カット野菜の納品量が増加しており、特に業務用需要では、相場に左右されることなく堅調である。また、外食では、10月上旬までの高値により、輸入品比率を高めている業者もある。

### 入荷量の推移等

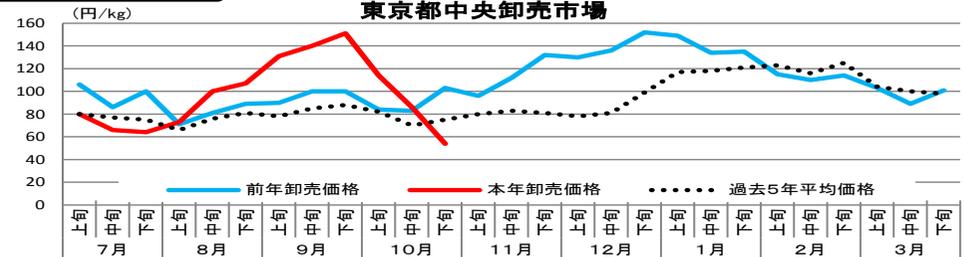


《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	↗	↗	↗	↗	↗



### 価格の推移等



《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	↘	↘	↘	↘	↘

## 2 秋冬だいこん（10～3月）

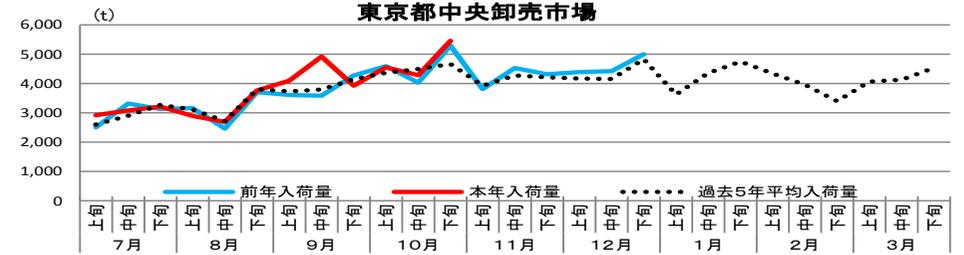
### 主産地の動向等

- 主な産地：千葉、神奈川、徳島
  - 作付面積は、千葉は100%、神奈川及び徳島は100%。
  - 生育状況は、千葉は、8月の播種時期が平年より遅れたが、その後の好天により、生育は順調に推移している。神奈川は、台風18・19号の影響により、塩害等の被害が一部あったが、生育は順調に推移している。徳島は9月上旬より播種が開始され、生育は順調に推移している。
  - 出荷開始は、千葉は10月中旬、神奈川は11月上旬、徳島は11月上旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は平年並みか高い、降水量は平年並みか多い、日照時間は平年並みか少ない見込み。

### 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

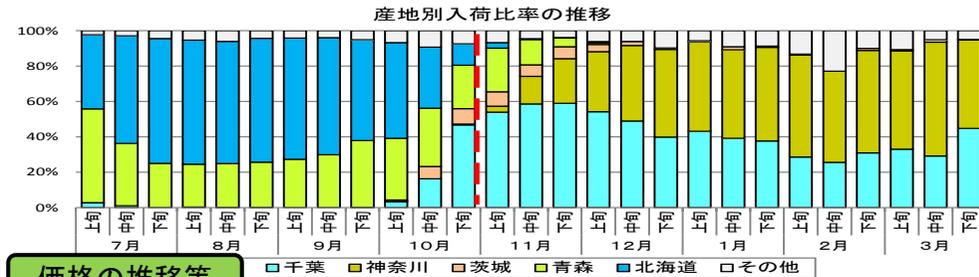
- 供給見通し
  - 作付面積は、前年並みの見込み。千葉は地区によって増減はある。
  - 生育状況は、千葉は、8月の播種時期が平年より遅れたが、その後の好天により生育は順調に推移。神奈川は、台風18・19号の影響により、塩害等の被害が一部あったが、生育は順調に推移。徳島も生育は順調に推移。
  - 出荷量は、台風18・19号の被害は軽微で、概ね順調な出荷が見込まれ、期間を通じて前年を上回る見込み。
- 需要・価格見通し
  - 価格は、順調な生育が見込まれ入荷量増の単価安の見込み。
  - 一部の産地では、年明けに塩害の影響が出ることが懸念されている。
  - 外食では、夏場と違いメニューも少なく、需要は少ない見込み。

### 入荷量の推移等

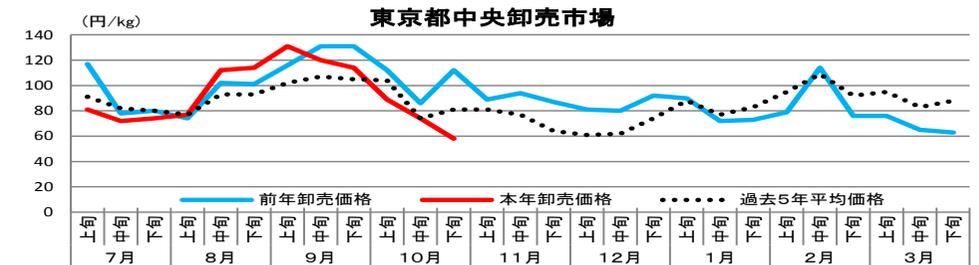


《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	↗	↗	↗	↗	↗



### 価格の推移等



《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	↘	↘	↘	↘	↘

### 3 たまねぎ（11～3月）

#### 主産地の動向等

##### 1 主な産地：北海道

- 作付面積は、北海道は100%。
- 生育状況は、北海道は、定植の開始時期が平年よりも遅れたが、その後の好天により、平年より1週間早く終了。収穫作業は9月末で概ね終了し、貯蔵用原料の倉入れは10/下～11/中に行われる。全体的に昨年よりも大玉傾向となっており、中晩成に比べて、早生種の方が大玉傾向。
- 出荷開始は、北海道は極早生が8月、早生が8月下旬、中生・晩生が11月。

#### 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

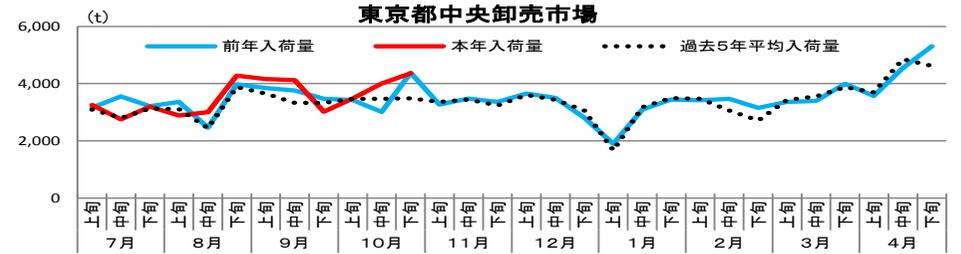
##### 1 供給見通し

- 作付面積は、前年並みの見込み。
- 生育状況は、北海道は、定植の開始時期が平年よりも遅れたが、その後の好天によって平年より1週間早く終了。全体的に昨年よりも大玉傾向で、中晩成に比べて早生種の方が大玉傾向。
- 出荷量は、前年は早ばつの影響で不作であったが、本年の作柄は平年よりやや良好で、期間を通じて前年を上回る見込み。

##### 2 需要・価格見通し

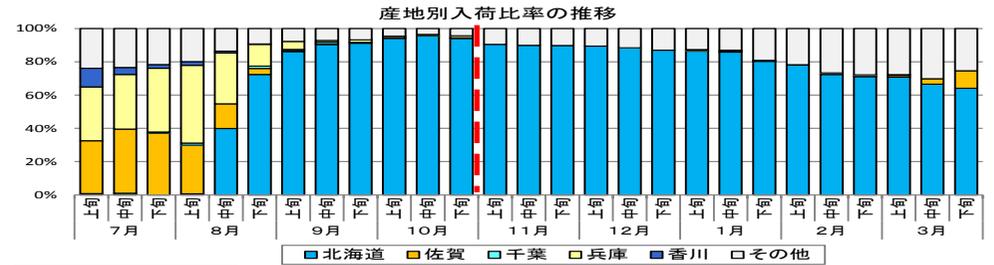
- 価格は、入荷量増の単価安の見込み。
- 加工・業務用は、中国産のたまねぎの残留農薬の問題によって、国内供給に一部懸念があったが、北海道産の生育が順調で豊作傾向となっていることから、現状では大きな混乱はない。また、円安により中国産との価格差が縮まったことから、一部の外食業者では国産にシフトする動きが見られる。

#### 入荷量の推移等

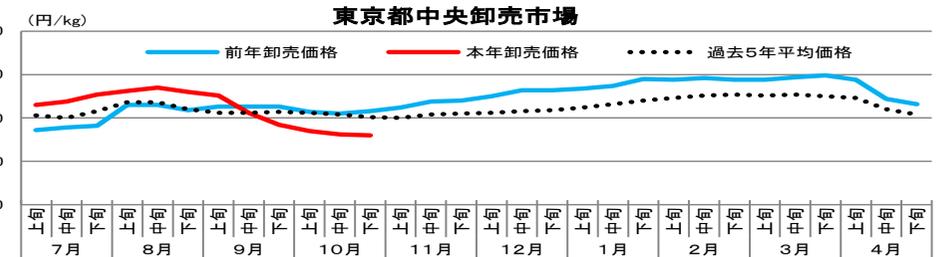


《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月	4月
前年比	↗	↗	↗	↗	↗	↗



#### 価格の推移等



《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月	4月
前年比	↘	↘	↘	↘	↘	↘

## 4 冬にんじん（11～3月）

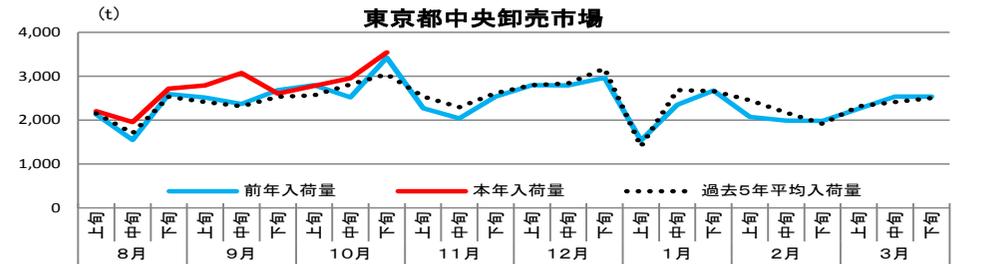
### 主産地の動向等

- 主な産地：千葉、愛知、長崎
  - 作付面積は、千葉は101%、愛知は96%、長崎は96%。
  - 生育状況は、千葉は8月下旬以降の低温・日照不足の影響で、生育にやや遅れが見られるが、概ね順調。愛知は台風18・19号の影響で、一部被害はあるが、全体的に生育は概ね順調に推移。長崎は、播種は天候不順によって平年よりも1週間遅れたが、その後の好天により、生育は順調に推移している。
  - 出荷開始は、千葉は10月下旬、愛知は11月中旬、長崎は11月上旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は平年並みか高い、降水量は平年並みか多い、日照時間は平年並みか少ない見込み。

### 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

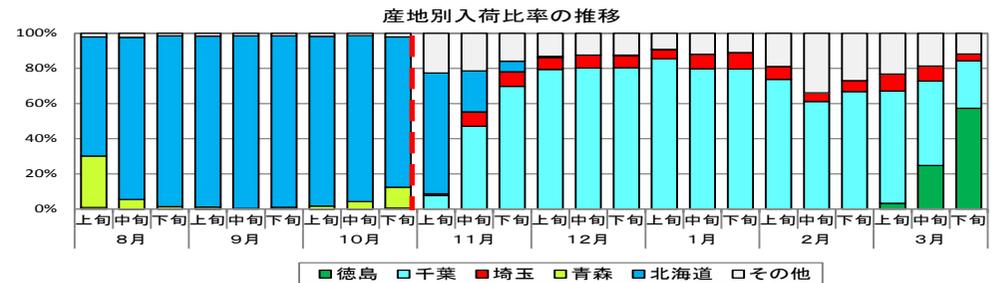
- 供給見通し
  - 作付面積は、全体ではやや減少。千葉は微増
  - 生育状況は、千葉は8月下旬以降の低温・日照不足の影響で、生育にやや遅れが見られるが、概ね順調。愛知は台風18・19号の影響で、一部被害はあるが、全体的に生育は概ね順調。長崎は、播種は天候不順によって平年よりも1週間遅れたが、その後の好天により、生育は順調に推移。
  - 出荷量は、台風18・19号の被害は軽微であり、概ね順調な出荷が見込まれ、期間を通じて前年を上回る見込み。
- 需要・価格見通し
  - 価格は、北海道産の残量も前年より多めの見込みで、千葉産も台風の影響もなく生育順調であるため入荷増の単価安が予想される。
  - 加工・業務用は、前年が国産の不作により高値であったことから、中国産が多く使用されたが、本年は価格も安いこともあり国産が主流となる見込み。

### 入荷量の推移等

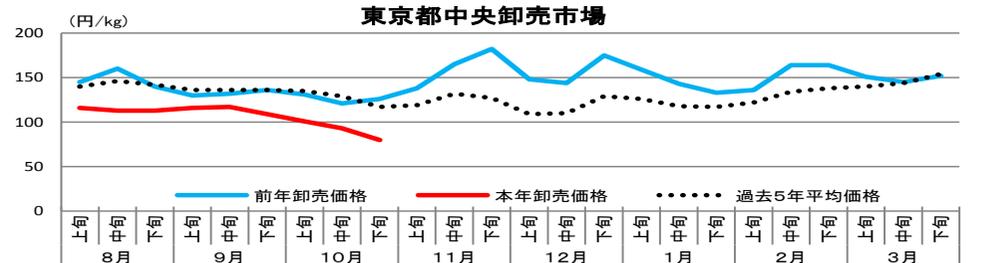


《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	↗	↗	↗	↗	↗



### 価格の推移等



《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	↘	↘	↘	↘	↘

## 5 秋冬はくさい（10～3月）

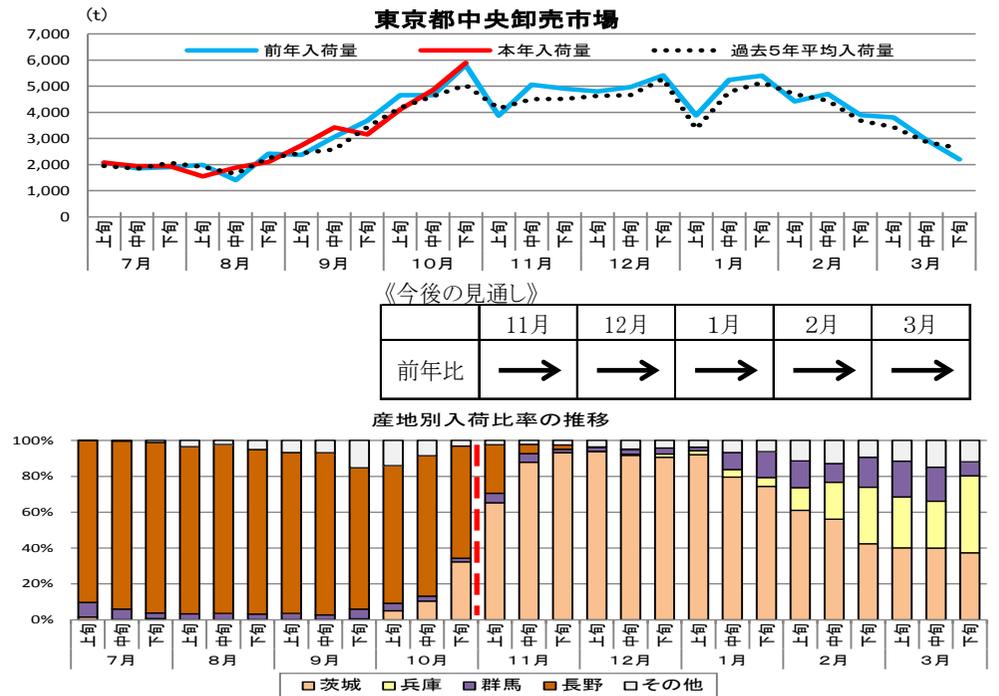
### 主産地の動向

- 主な産地：茨城、愛知、兵庫
  - 作付面積は、茨城は99%、愛知は98%、兵庫は100%。
  - 生育状況は、茨城は適度な降雨により定植作業は順調に進み、その後の生育についても、病害虫の発生が少なく順調に推移。愛知は、台風18・19号の影響は少なく、生育は順調に推移。兵庫は、台風18・19号の被害はなく、生育は順調に推移。
  - 出荷開始は、茨城は10月上旬、愛知は11月中旬、兵庫は12月上旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は平年並みか高い、降水量は平年並みか多い、日照時間は平年並みか少ない見込み。

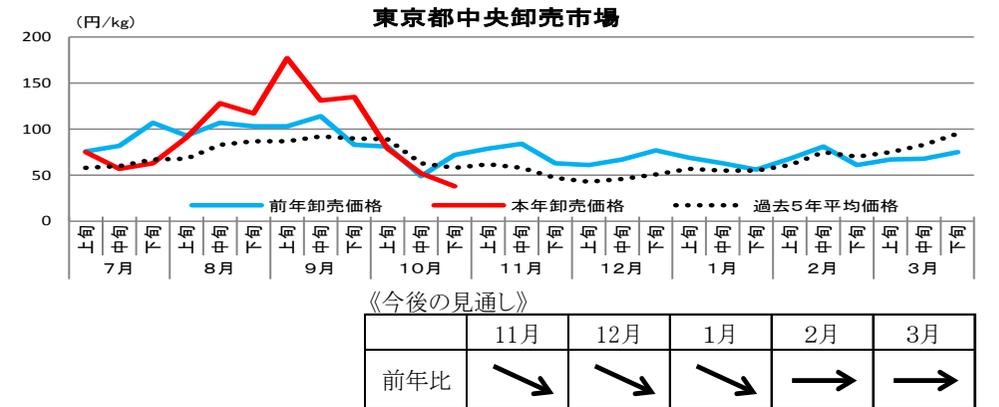
### 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 供給見通し
  - 作付面積は、前年並み。愛知は生産者の高齢化及び品目転換によりやや減少。
  - 生育状況は、茨城は順調に定植作業が進み、その後の生育についても、順調に推移。愛知は、台風18・19号の影響は少なく、生育は順調に推移。兵庫は、台風18・19号の被害はなく、生育は順調に推移。
  - 出荷量は、台風18・19号の被害は軽微で概ね順調な出荷が見込まれることから、期間を通じて前年を上回る見込み。
- 需要・価格見通し
  - 価格は、長野産の残量が多く入荷増の単価安が予想されるが、一部産地での病害や台風の影響（塩害）が懸念され、出荷期の終盤の3月に少なくなり、前年並みの価格になる可能性があるともみている。
  - 加工・業務用は、外食ではくさいを使わない鍋メニューも増えている。一方で、忘年会・新年会シーズンでは、価格も安いことから需要は増える見込み。

### 入荷量の推移等



### 価格の推移等



## 6 冬レタス（11～3月）

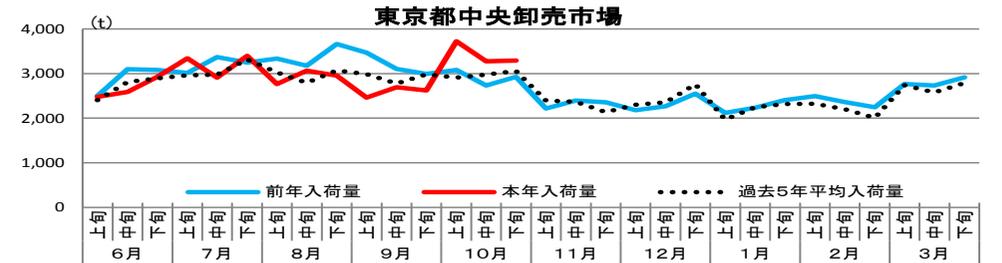
### 主産地の動向

- 主な産地：茨城、静岡、兵庫、香川
  - 作付面積は、茨城及び静岡は99%、兵庫は98%、香川は100%。
  - 生育状況は、茨城は、台風18・19号の被害もなく、順調な生育で推移。静岡は、台風18・19号の被害は軽微であり、順調な生育で推移。兵庫は、台風18・19号の影響で圃場が冠水し、定植できなかった時期があるものの、生育に大きな影響はない。香川は、降雨の影響で定植が遅れたが、現在は回復。全体的な生育は順調に推移。
  - 出荷開始は、茨城は9月下旬、静岡は10月下旬、兵庫は10月中旬、香川は10月中旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は平年並みか高い、降水量は平年並みか多い、日照時間は平年並みか少ない見込み。

### 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 供給見通し
  - 作付面積は、概ね前年並み。
  - 生育状況は、茨城は、順調な生育で推移。静岡は、台風18・19号の被害は軽微で順調な生育で推移。兵庫は、台風18・19号の影響で圃場が冠水し、定植できなかった時期があるものの、生育に大きな影響はない。香川は、全体的な生育は順調に推移。
  - 出荷量は、12月と3月を除いて前年を上回る見込み。
- 需要・価格見通し
  - 価格は、関東産の出荷の切り上がりが早くなり、九州産の出荷が始まるまでの11月下旬には出荷の谷間が出来る可能性がある。また、夏の長雨の影響で定植遅れの時期があり、12/中・下の出荷に影響がでる可能性。
  - 加工・業務用は、本年も冬場の高騰に備えて、リスク管理対策として、台湾産の輸入を発注する業者もみられる。

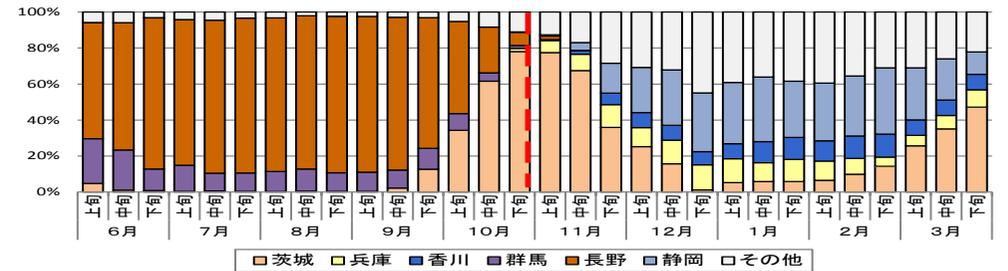
### 入荷量の推移等



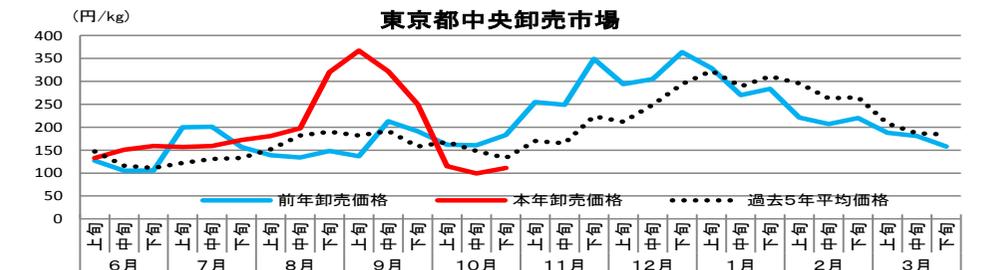
《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	↗	→	↗	↗	→

### 産地別入荷比率の推移



### 価格の推移等



《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	↘	↘	→	→	→

## その他、秋冬野菜全体の主な消費の動向等

### ① 冬場の消費を左右する要因、注目している要因

- 暖冬の予測もあることから、鍋物の前に需要が伸びる煮物、おでんの販売を伸ばしたい。
- 冬場の鍋物需要に合わせて、はくさいを使ったメニュー提案を行いながら販売することが重要である。
- 原油の高騰により、果菜類などは暖房の使用を遅らせる動きがあるので、出荷が遅れ十分な量が確保できるかが心配である。
- 業務用では、冬場のはくさいの需要が伸びていない傾向がある。はくさいを使わない鍋メニューが増えているのではないかな。

### ② 主要6品目以外の野菜で、販売戦略として特に注目している品目の動向

- きのこと類は、低カロリーで多品目、メニューも多いこと、かつ、施設栽培で天候の影響も受けにくいことから価格も安定しており、取り扱いやすい商品となっている。特に、冬場の鍋物を中心に需要が見込まれている。
- 外食業界でも肉厚の大型しいたけの需要が伸びている。また、しいたけを使った秋メニューが増えている。
- 調理用トマトは、夏場の販売も好調であったことから、今後も販売を進めていきたい。

### ③ 震災や原発事故の影響による消費動向

- 全体として消費者などからの問い合わせは少なくなっているが、夏の時期（東北産が出回る時期）になると納入先の学校、施設等からの問い合わせや産地を選ぶ傾向は依然として一部にみられる。
- 原発関連の報道があると、西日本の野菜の需要が伸びる傾向にある。

### ④ ドライバー不足や燃油高騰による物流・物資調達への影響

- ドライバーの1日当たりの運転可能時間が規制されるなど、トラック輸送に係る状況が変わってきている。また、ドライバーは正規雇用でない人が集まらなくなっており、特に、長距離ドライバーの確保が難しくなっている。
- 資材費上昇も含めて、輸送賃が20%程度アップした事例がある。
- ドライバー不足や燃油高騰等への対応策として、鉄道輸送へのモーダルシフトの動きがあるが、コンテナの確保が懸念される。

### ⑤ その他

- 近年、野菜価格の乱高下が多くなってきている。量販店等では2週間程前にチラシを作成することから、市場価格にあわせた販売価格の設定が難しい。一方で、直近の入荷状況の変動を強く反映して市場価格が設定され、変動する傾向がある。関係者間で、産地の直近の情報やその後の生育・出荷見通し等の情報を共有することが、全体の需給、価格の安定を図る上で重要と考えられる。
- 野菜の高騰期には、カット売りやバラ売りが増えるが、購入世帯の高齢化やカット野菜の利便性からこの傾向は引き続いており、価格が安くなってもホール物の購買には戻らないとみている。